

横マクリ遺跡

(糸魚川市大字田伏字横マクリ)

横マクリ遺跡は、金山から連なる丘陵^{すその}裾野の沖積低地に立地する遺跡で、国道8号糸魚川東バイパス建設に伴い、平成18年度から発掘調査を行っています。昨年度の調査によって、古墳時代前期後半（4世紀後半）を中心とする遺跡であることがわかっています。今年度は約1,100㎡を対象に、8月～12月まで調査を行いました。

今年度の調査では、調査区西側（昨年^{すその}の調査区側）を中心に古墳時代前期の遺物が多く見つかかり、また東側を中心に平安時代（10世紀後半～11世紀頃）の遺物が見つかっています。

古墳時代の遺構は、ピットが約20基、土坑1基、溝1基などがあります。土器は壺・甕・高杯^{たかつき}・器台^{きだい}などがあり、赤彩品は少なく、ほとんどが日常的な器であったと考えています。また土器が集中している場所が、何か所か見つかかりました。居住の場または廃棄場であった可能性があります。石製品で注目されるのが30点以上出土した玉類の未成品で、ヒスイ製の勾玉も1点ありました。いずれも未成であることから、完成品は遺跡の外に持ち出されたものと考えられます。

平安時代の頃に居住していた痕跡は見つかっていませんが、東際に位置する自然流路内から、製塩土器などが多く見つかかりました。製塩土器は指頭大の細片に砕けているものが大半です。

古墳時代の遺物量が東に向かい徐々に少なくなっていることから、今年度の調査範囲は居住域に隣接する集落の縁辺部、もしくは作業場であった可能性があります。（石川智紀）



古墳時代の遺物出土状況

六反田南遺跡

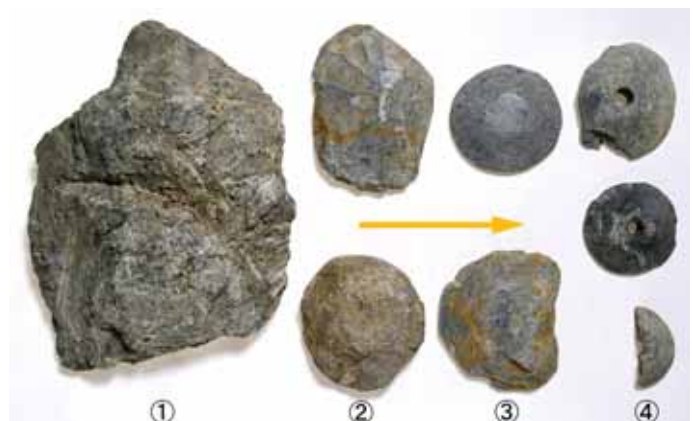
(糸魚川市大和川字六反田地内)

整理報告遺跡

糸魚川では多様な石材が産出されることから、古くから石器・石製品の製作が盛んにおこなわれてきました。川跡から古墳時代後期の土器に伴い、「滑石」^{かつせき}を加工した石製品が大量に出土しました。主に勾玉^{まがたま}・管玉^{くだたま}・白玉^{うすだま}・石製模造品・石製紡錘車を製作していたことが、工程のわかる未製品の存在から明らかになりました。ほかに敲石^{たたせき}や砥石^{といし}など製作に用いられた工具も多く出土しています。

特に紡錘車の製作工程が分かる資料は出土例が少なく、県内では糸魚川地域でのみ確認されています。紡錘車は、遠心力を利用して糸を紡ぐ道具ですが、玉類に穴をあける道具として使用された可能性もあります。

当遺跡の石製品と製作工程品のほとんどはこの川跡から出土しており、工房のような施設から運び出されて一括廃棄されたものと考えられます。今回の調査区の周辺に大規模な玉作の工房^{たまつくり}が発見される可能性が高いと考えられます。今後の調査が注目されます。（株吉田建設 水落雅明）



紡錘車の製作工程

(原石 荒割 整形 穿孔)